

特集 平成最後のお正月を迎えて



と十年は大丈夫だろう。私の少青壮年期の四十年間は昭和と共にあり、中老年期の三十年間は平成と共にあったが、新元号と共に始まる今後の十年も楽しみながらそれなりの社会的貢献をしたいと願っている。

(一)一九四九年一月生まれの私の目下の楽しみは、二〇一九年五月に故郷・松山で開催される七十歳記念同窓会。平成天皇が突然表明した生前退位のための法整備を含む準備は着々と進み、二〇一九年四月には平成の三十年間が終了する。

て、学生運動に明け暮れた後、司法試験への道を決めた学生時代。一九七〇年の大阪万博を尻目に我が道を突っ走り、一九七四年に弁護士登録、一九七九年には独立して自分の法律事務所を持った。

わずか七日間だけで終わった昭和六十四年(一九八九年)の一月五日に発生した少女誘拐事件を描いた映画『64―ロクヨン』のテーマは「犯人はまた昭和にいる」だったが、さて平成は? 古き良き昭和を象徴する

(二)私の転換点は、天安門事件やベルリンの壁崩壊と同じ一九八九年。ライフワークは公害問題から都市問題・土地問題へ移っていたが、その最中の一九八九年、日本の土地バブルは弾け株価も大暴落。日本は「失われた十年」に突入した。

『ALWAYS 三丁目の夕日』は東京タワー建設中の昭和三十三(一九五八)年の東京の下町が舞台だった。対して私の松山での小中高時代は、三種の神器(テレビ・洗濯機・冷蔵庫)の整備は遅かったものの、『高校三年生』を歌い、気持ちには常に前向きだった。そし

一九七九(一九八〇)年(三十三歳)の私は仕事も遊びも大忙し。毎晩のように北新地を飲み歩き、週末にはゴルフ場通いだったが、バブル崩壊後は平成の時代と共に五十(六十)代の円熟期を過ごし、二〇一九年一月には遂に七十歳を迎えた。今後は老齢期だが、二〇二〇年には東京五輪が、二〇二五年には二度目の大阪万博も? 都島区に引越した直後に大腸と胃ガンの手術が続いたが、幸運にも転移はないから、あ

